

発電装置や動力装置を一貫製造、メンテも

株式会社ケイ・エス・アイ(相模原市)

経営理念

会社に関わる全ての人が仕事を通じて人間性を向上させることを目指そう。

人の役に立ち、喜ばれ、感謝され、流石と言われる仕事をしよう。

明るく積極果敢に挑戦し、成功または、学びを得る風土を育む。

★創業の経緯★

今回は、ディーゼルエンジンやガスエンジンで駆動する、発電装置、コージェネ、非常動力装置、ポンプユニットの設計・製造・艤装工事・据付工事・試験運転・メンテナンスまで自社で一貫して実施する「株式会社ケイ・エス・アイ」を取材した。代表は黒澤淳一（くろさわ・じゅんいち）社長。住所は〒252-0244 神奈川県相模原市中央区田名3892-2。☎042-763-6192。

同社は昭和61年（1986年）の創業以来、陸用エンジンの艤装工事を得意とし、重電メーカー向けに防災用・非常用・常用の発電装置、ポンプユニットのOEM（相手先ブランド製造）供給を行っている。特に汎用エンジンの調達能力と運転調整能力、エンジン駆動装置の開発能力に優れている。

「キャタピラー」「カミンズ」「コーラー」「イエンプッハ」に加え、「三菱重工業」「小松製作所」「クボタ」「ヤンマー」といった国内外の大手エンジンメーカーから、顧客のニーズに最適なエンジンを選定し、エンジンの艤装工事からエンジン装置のパッケージ化、据付工事、性能試験、保守管理まで自社で一括して請け負っている。

創業は昭和61年（1986年）4月、エンジニアリング事業を展開する「ケイ・エス・アイ エンジニアリング」が神奈川県伊勢原市で設立された。

現在社長を務める、黒澤淳一氏の実父の黒澤久夫（くろさわ・ひさお）氏が初代社長に就任した。現在、久夫氏は相談役を務めている。

「ケイ・エス・アイ」という名前は、創業時の中心メンバーである黒澤（KUROSAWA）、佐々木（SASAKI）、石井（ISHII）、3名の名字から1字ずつ取って作られたものだ。

昭和62年（1987年）3月、有限会社としての法人設立。その後、平成14年（2002年）6月、株式組織への移行に伴い、「株式会社ケイ・エス・アイ」が設立された。

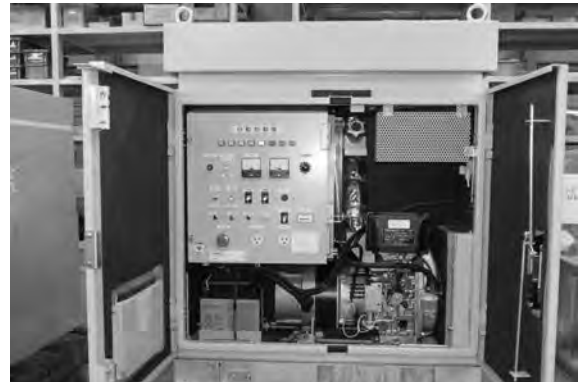
創業以来、発電装置に搭載される陸用エンジンの艤装工事のほか、発電装置の据付工事、性能試験、メンテナンスやオーバーホールといった保守管理などに取り組んでいる。

平成17年（2005年）5月、神奈川県相模原市の現在地へと移転し、本社ビル・工場を建設した。

平成24年（2012年）5月、「建設業許可（般-24）



非常動力装置認証用の製作中(100kW超500kW未満)



小型非常用発電装置



主燃料槽18,000L角タンクの製造中



中2階に併設の負荷装置6600V/1,200kW

第50029」を更新した。平成25年（2013年）7月、国際的な品質マネジメントシステム規格「ISO-9001」の認証を取得した。認証範囲はエンジン発電機およびエンジン動力装置並びに機械装置、電気装置等の設計・製造および付帯サービス。平成26年（2014年）12月、黒澤淳一氏が第二代社長に就任し、現在に至っている。

ぎそう ★艤装からメンテまで一括受注★

ケイ・エス・アイの特長として、エンジンで駆動する装置の艤装工事から据付工事・性能試験・メンテナンス業務まで一括して請け負い、自社で一貫して実施している点があげられる。

売上高の構成比をみると、燃料槽（灯油・軽油・A重油・潤滑油）、冷却水槽、油庫（燃料小出槽）、給油口ボックスなど、エンジン発電装置の「付帯設備」の製造、販売が約5割を占めている。

また、陸用エンジンやエンジン発電装置の組立工事、配線工事といった「艤装工事」が約5割を占めている。

そのうち、艤装工事については、ディーゼルエンジンやガスエンジンを搭載する、超低騒音型の「非常用・常用発電装置（定格出力15kVA～300kVA）」を設計、製造を行っている。

また、電気と熱を同時供給できる超低騒音型の「コージェネ（定格出力15kVA～1,000kVA）」をホテル、病院など向けに数多く設計、製造を行っている。

さらに、排水機場に設置される「常用ポンプユニット（定格出力500kVA以下）」のほか、さまざまな施設で消火設備として使用される「非常用消火ポンプ」「水抵抗負荷装置（3kW～1,000kW）」「積雪測定装置」「特殊研磨装置」などの設計、製造も行っている。

なお、発電装置、ポンプユニットについては、それぞれ重電メーカー向けにOEM供給を継続している。

★充実した試験装置★

生産拠点である本社工場では、大型発電装置のパッケージ化にも対応可能な「ケタ下5.8mの天井走行クレーン(10トン×2基)」を導入している。また、各種試験装置としては、エンジンテストに欠かせないエンジンの速度と出力を計測する「吸収型タナカ式動力計（185kW、515kW各1台）」を設置している。平成25年（2013年）、工場内に都市ガスの配管を導入した。

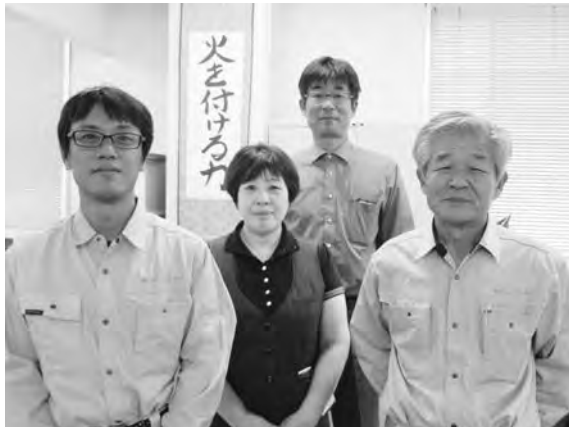
さらに、平成27年（2015年）に導入した、大型



主力製品の燃料タンク



主力製品の油庫(ゆこ)



左から大森専務、佐藤取締役、黒澤社長、黒澤相談役



油庫の内部

発電装置の運転試験に最適な「ニクロム線負荷装置 (6,600V/1,200kW 1台、200V/400V/250kW 2台)」のほか、定期点検で使用される「水抵抗負荷装置 (200V/500kW 1台)」を活用した発電装置の性能試験にも取り組んでいる。

ケイ・エス・アイでは、発電装置などの設計から製造、組立、据付、性能試験まで、同社が一括して請け負うことで、お客様はトータルなコストダウンを図るメリットを得られるとしている。

★非常動力の市場に本格進出★

ケイ・エス・アイでは、平成28年(2016年)中にも初めて、自社ブランドの「非常動力装置 (100~500kW)」を製品化する予定だ。内発協が実施する「製品認証」の取得も計画している。今後、

非常動力装置の設計、製造、販売に注力していく。

また、高速道路の電光掲示板や一般道路の信号機向けに非常電源として設置される、非常用発電装置 (1.5kW~10.0kW) を新たに電機メーカー向けにOEM供給を実施していく。

さらに、陸用のディーゼルエンジンやガスエンジンの「艀装工事」と並行して、非常用発電装置 (300kVA以下)、常用発電装置 (2,000kVA以下)、防災用常用兼用発電装置 (2,000kVA以下)、ポンプユニット (500kVA以下) など、エンジン駆動装置の「艀装工事」に邁進していく。重電メーカー向けに各製品のOEM供給を展開していく。

一方、発電装置の据付工事および運転調整、法令に基づいた定期検査や保守管理に伴うオーバーホールなど、発電装置に関連した「附带サービス」の受注拡大にも注力していく。

オートバイなど車輛用エンジンから排出される、排気ガスの「測定装置」の設計、製造、販売のほか、「測定試験」の委託業務など、受注獲得にも注力していくこととしている。